

エヌビディア(NVDA)

【セクター】 半導体

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

米国の半導体メーカーです。コンピュータで画像表示をスムーズにするために用いられる半導体であるGPU（グラフィック・プロセッシング・ユニット）が主力で売上の87%を占め、CPU（セントラル・プロセッシング・ユニット）が13%を占めます（19年1月期）。エンドユーザー別の売上は、ゲームが54%、データセンターが25%、プロ向け画像処理PCが10%、自動車が5%、OEM・IPが6%を占めます（19年1月期）。ニンテンドースイッチ向けのCPUは、OEM・IPに含まれています。

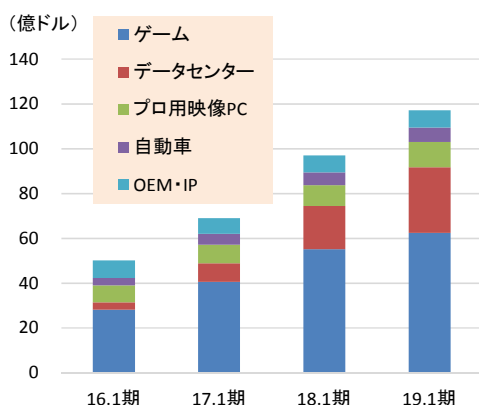
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年1月期	9,714	2,927	4.63	0.57	12.3	44.2	66.5
19年1月期	11,716	3,810	6.10	0.61	15.4	45.3	70.3
20年1月期予想	10,996	3,285	5.19	0.65	17.9	27.7	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

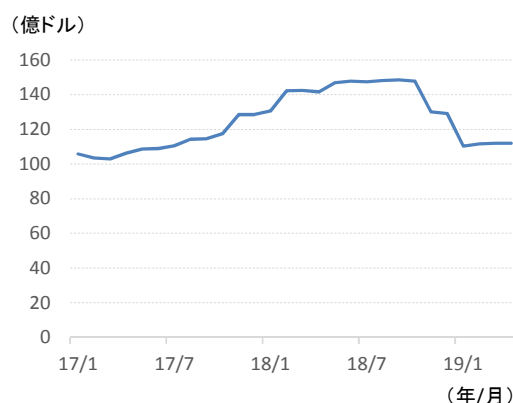
【主要指標】

図表1 エンドユーザー別売上



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 20年1月期売上の予想推移



(出所) BloombergデータをもとにSBI証券が作成

【会社の見方】

主力のGPUはコンピュータで画像処理を加速するための「部品」に過ぎませんでしたが、人工知能（AI）の計算に有用と判断して「GPUコンピューティング」の会社に変化しつつあると注目されています。データセンター向けに需要が拡大しているほか、将来的には自動運転コンピュータとしての需要が期待されています。GPUを画像表示でなく数値計算に使用するためにはソフトウェア群が必要で、同社はこれを「CUDA」として2006年から普及に努め、他社が簡単に追いつけないリードを獲得、同市場をほぼ独占しています。

【見通し・注目点】

20年1月期の予想売上は一時150億ドル近くに達していましたが、現在110億ドルまで下方修正されています（図表2）。下方修正の主因は、ゲーム向けに含まれている仮想通貨のマイニング用途分が推定していたよりも大きく（販売会社を通じるため用途は厳密には分かりません）、これが急減してゲーム向けの見通しが急低下したことです。また、2-4月期にはデータセンター向けが前年同期比で減少に転じたことも心配されます。自動運転コンピュータ向けの売上が計上される来期まで業績は不安定になりやすいと見られます。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/5/22)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。